

「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」

（ヨハネの福音書14:1）

十字架の贖いを成し遂げて下さった私たちの主イエス・キリストの素晴らしい御名を崇めます。

2回目の緊急事態宣言がある程度効を奏して、感染状況は少しずつ落ち着きを取り戻しつつある昨今ですが、今後の課題としてワクチン接種の問題があると思います。

新型コロナワクチンについては様々な情報があり、副反応についての不安を覚える方や受けた方がいいのかどうか迷う方も少なくないのではないかと思います。今回はワクチンの副反応についてクリスチャンの専門医である何人かの方に助言をいただき、それを元に窓口の担当者と協議したものをまとめさせていただきました。

ただ、副反応についてはかなり専門的な内容であり、これを丁寧に説明しようとするとかかなり長文となってしまうので、まずは要点のみをまとめた別添のチャートをご覧ください。

以下に本文を記しますが、1は読み飛ばして2から読んでくださっても構いません。また、この通信をまとめる過程で、担当委員から出された質問に医療アドバイザーである吉田が答えた質疑応答集も附記しました。皆様が疑問に感じる点について、参考になれば幸いです。

なお、本通信も含め、感染対策窓口からの文書は、JECA各教会の参考にしていただくために発信する情報であり、JECAの公式見解を示すものではありません。この点をご理解の上で、各教会でお用いください。また、今回配布されたJECAフォーラム110号はコロナ禍特集となっていますので、これも合わせて参考にしていただければ幸いです。

1 新型コロナワクチンの副反応について

（1）発がん性を懸念する声もありますが

ワクチンの副反応について、巷間さまざまな情報が流れています。今回日本で導入予定の主な新型コロナワクチン（ファイザー社製、モデルナ社製）は、従来の弱毒化したウイルスそのものを用いるのではなく、ウイルスの遺伝情報を伝達するm（メッセンジャー）RNAを体内に注入するので、遺伝子組み換えによってがんを発生する可能性があるのではないかという指摘もあります。しかし注入されたmRNAは分解されやすく、ヒトの染色体に組み込まれることはないとのことですので、発がん性については問題ないと考えてよいのではないかと思います。

（2）今回のワクチンにはこんな利点も

むしろ従来のワクチンは液性免疫（抗体）しか産生されませんが、今回の新型コロナワクチンのうち、mRNAワクチンは注入されたmRNAによって体内でウイルスタンパク質が作られるため、液性免疫だけでなく細胞性免疫（細胞障害性T細胞）も賦活化されるので、従来のインフルエンザワクチンよりも強力な予防効果が得られると考えられます。

また、このワクチンは遺伝子配列を変えるだけなので、今後変異ウイルスが流行してきた場合にも、迅速に対応できるというメリットもあります。

（3）注意すべき副反応は

ただし、副反応についてももしっかり理解しておく必要があります。すでに発生が確認されているのは、アナフィラキシーショックなどのアレルギー反応です。これは、ワクチンの成分であるポリエチレ

ングリコールが原因と考えられています。ですから、事前の問診によってアレルギー反応を起こす可能性のある人をチェックして、その人はワクチンを受けないようにすることで、事故を防ぐことは可能と思われます。また、接種会場では、アナフィラキシーショックが起こる可能性を想定した準備をしておくことができるので、徒(いたずら)に恐れる必要はないと思います。

従来の不活性化ワクチンや弱毒化ワクチンでは、まれに自己免疫が誘発されることがありました。自己免疫とは、異常な免疫反応によって健康な自分の細胞を攻撃してしまうことです。今回のワクチンでも、今後経過を見ていく中で同様のことが起こる可能性がないとは言えません。

また、不十分な免疫誘導による、抗体依存性感染増強が起こる可能性も指摘されています。抗体依存性感染増強とは、ワクチンを打つことによって、かえって感染が悪化するという現象です。これは実際に起こったという事例はまだ報告されていませんが、これも今後そういうことが起こらないか、注視していく必要はあると思います。

(4) 実際よく起こるのは

打った部位が少し腫れて痛くなったり、何となく身体全体が怠(だる)くなることは、インフルエンザワクチンでも起こりますが、新型コロナワクチンではこうした症状がやや強い印象があります。場合によっては熱が出ることもあるようです。これも副反応と言えば副反応なのですが、接種されたワクチンによって起こっている免疫反応であり、いわば正常な生理反応ですので、安静を保って自然に治まるのを待って下さい。

また通常の予防接種は皮下注射（針を斜めに刺す）なのですが、新型コロナワクチンは筋肉注射（針を垂直に深く刺す）なので、見た目に痛い感じがしますし、実際に打った人の感想として、「インフルエンザのワクチンより痛いような気がする」という声も聞かれます。

残念ながら、すべてのワクチンには副反応があります。しかし、その副反応を上回るメリットがあると政府が判断した場合に、行政がこれを行うこととなります。今回の新型コロナワクチンも、社会全体としてはメリットがデメリットを上回っていると考えられると思いますので、基本的には接種対象となった皆さんは接種を受けることをお勧めします。

ただしこれは強制ではなくあくまでも任意ですから、接種を受けるかどうかは、こうした情報を元に各自で判断する他はありません。とは言え、どう判断したら良いか分からないと悩んでおられる方も少なくないと思いますので、以下の考え方を判断の材料としていただければ幸いです。ただしこれはあくまでも一つの考え方ですから、各自が祈ってご判断ください。

なお、上記の記載については、クリスチャンとして交わりのある島根大学医学部微生物講座准教授飯笹久先生並びに大阪市西成区役所結核対策特別顧問・公益財団法人結核予防会結核研究所主幹下内昭先生から助言をいただきました。

2 ワクチン接種を受けた方がよいかどうかを考える基準

(1) 自分の生活スタイルから判断する

ワクチン接種を受けることのメリットと副反応によるデメリットのバランスを判断するための最も重要な要因は、他者との接触の頻度です。つまり、接触の頻度が高い人は感染のリスクが高いため、デメリットよりもメリットが相対的に高くなると言えます。

ですから、当面接種対象となる65歳以上の皆さんに関して言えば、若い世代の人と同居している方、親族等の訪問がよくある方、また会堂での礼拝に出席している方、その他、外出の機会が少なからずある方は、ワクチン接種を受けることのメリットがデメリットを上回っていると考えてよいと思います。

また基礎疾患のある方や肥満の方は、感染した場合の重症化のリスクが高いためワクチン接種のメリットは大きいと思いますが、個別の事情もありますので、受ける場合には普段かかっている医師にご相談ください。

更に医療従事者は優先的に接種対象となりますが、副反応のリスクを考慮したとしても、受けるメリットは大きいでしょう。また介護従事者、学校教職員、サービス業などに従事している人も、今後接種対象となった場合は、メリットの方が大きいと考えてよいと思います。

(2) 社会の一員として考える

これまでに経験したインフルエンザの流行に関する疫学的データから見て、社会全体の感染が収束するための目安は、抗体保有率が6割を越えることと考えられています。現時点(2021年1月下旬)の感染状況から見ると、国内の感染者累計数は40万人弱です。仮に、実際にはその10倍の人が感染していたとしても、国民全体の抗体保有率は3%程度です(感染した人がすべて抗体を保有しているかどうかは定かではありませんが、仮の計算として)。ですから、結局のところ、我が国において社会全体の感染が収束するのは、国民の半数以上がワクチン接種を受けた時点ということになります。

個人としてワクチンを受けるか受けないかを判断する基準は、メリットとデメリットのバランスであると述べました。確かにその通りなのですが、一方で社会の一員として考えると、「自分は副反応が心配だから受けない」という人が多くなると、結果的に社会全体の感染が収束する時期がそれだけ遅れるということになります。

ワクチンを受けるべきかどうかを判断する際に、個人としてのメリット、デメリットだけでなく、社会の一員としてどうするか、ということも頭の片隅においていただけると幸いです。

ただし「自分は受けない」という選択も合理的な判断の一つですから、そのことによって互いにさばき合うようなことにならないようにしてください。

(3) 牧師としての姿勢

牧師は信徒を守る責任があります。牧師自身が新型コロナウイルスに感染してしまうことによって牧会に支障を来す可能性を少しでも減らすことが出来るのだとすれば、たとえ副反応のリスクがあつたとしても、牧師が率先してワクチン接種を受けることは、結果として信徒を守ることになるのではないのでしょうか。

また牧師は、個人としての利益によって判断するだけではなく、社会の一員としてどう振る舞うかということの範を示す責任があると思います。ですから、私(吉田)は牧師として、接種対象となった場合には、率先してワクチン接種を受けるつもりです。

さいごに

日本基督教団の教会に所属する神学者でもある作家の佐藤優氏は、「現在の新型コロナウイルスになぞらえるならば、『私も新型コロナウイルスに感染するかもしれない。それ以上でも、それ以下でもない』という態度でいるということです。こうした心の在りようが、飛び込んでくる情報に右往左往したりしない態度を作ることができる」(「ウイルスが変えた世界的の構造」日本文芸社より)と述べています。

今後、新型コロナワクチンの効果や副反応に関する情報が、テレビやインターネットを通じて飛び交うことになると思います。どの情報が正しいのか、どれがフェイクなのかを判断することは、現実的には極めて難しいことです。今回の通信も、現時点で私たちが集めることの出来た情報を誠実に検討した結果をまとめたものですが、今後さらに接種が広まっていく中で、改めるべきことが生じるかもしれません。

ですからクリスチャンである私たちは、「新型コロナウイルスに感染するかもしれない。ワクチン接種を受ければ副反応が生じるかもしれない。それ以上でも、それ以下でもない」そういう態度で、「あなたがたは心を騒がせてはなりません」と言われる主を信頼し、粛々と生きていくべきなのではないでしょうか。